

平成 26 年度 第1回機械振興補助事業審査・評価委員会 議事要旨

1. 開催日時:平成 26 年 6 月 12 日(木) 午後3時00分～午後5時00分
2. 開催場所:公益財団法人 JKA 4A・B 会議室
3. 出席者
大山永昭委員長、金子聰委員長代理、岡俊子委員、河田聡委員、島裕委員、高千穂安長委員、野坂雅一委員、藤本浩志委員、吉岡忍委員、渡辺博委員(事務局) 笹部執行理事、松川部長、宮本課長、西上課長補佐
4. 議題
 - (1)平成 24 年度 JKA 補助事業評価について
 - (2)平成 27 年度補助事業の考え方について
 - (3)その他
5. 補助事業者プレゼンテーション
一般財団法人 大阪デザインセンター
6. 審議結果
 - ・議題(1) 平成 24 年度JKA補助事業評価については、評価作業部会の報告の通り了承された。
 - ・議題(2) 平成27年度補助事業の考え方について了承された。JKA事務局で平成27年度補助方針(案)を作成し、6月に行われる評価作業部会、7月に行われる補助事業審査・評価委員会で審議する。
7. 意見概要
議題(1)平成 24 年度補助事業の評価について(資料1関連)
特に意見なし。

議題(2)平成 27 年度補助事業の考え方について(資料2関連)
 - ①健康・医療・介護・福祉、国際化・グローバル化・人材育成といったテーマにはJKAとしての特色があまり表れていない。JKA として注力したい事業に改め、募集すべき。例えば、「環境にやさしい自転車・モーターサイクル」への要望がこの 2 年間ないとのことだが、具体的に「こういったセンサーが付いた自転車の開発を補助します」といったような誘導をしても良いので

はないか。

- ②すべての研究テーマを JKA で決めることは難しいと思うが、一つくらいは JKA から具体的な目標・研究テーマを与えるという補助メニューがあっても良い。
- ③現在の JKA 補助事業はニーズに応えるという考えだが、シーズを JKA が作るということになると、必要な根拠を得るために異なった評価のあり方が必要。
- ④新しいシーズを出すことは簡単なことではない。シーズを掘り出すための委員会のようなものが必要になり、事務局では難しい。
- ⑤複数年度事業で良い成果が出そうな事業には最終年には補助金を多く出すといった制度があっても良いかもしれない。
- ⑥アイデアコンペティションのような枠組みで、例えば「高齢者に最適な自転車とは何か」といった広い題を出し、その中から優秀なアイデアに補助金を厚く出すという形であればすわりが良いのかなと思う。
- ⑦JKA の独自性を示し、ニーズがある分野を支援することにより多くの人から感謝される。
- ⑧日本が「稼ぐ力」をどのように蓄えていくか、地方の繁栄は大事なテーマ。その中で、公設工業試験研究所の考え方については非常に時宜にかなっていて良いと思う。
- ⑨公設試が大事であることは理解できるが、ここ数年の議論でも出ているように、実績がどのように上がっているかが見えず評価が難しい。地域の力をどれだけ強めたかが分かる自己評価につなげてもらいたい。

* 本議事要旨は、(公財)JKA事務局が作成